

除災招福を願い 節分厄除祭

大和の光

3月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋
八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。



教主様随想記

大和神隨らの道

この数日来、夕べの鎮魂行において私に奇異なる神霊の働きを拝受している。

これまでの深き謎となりし開祖様のご生涯において神縁(みゆかり)をもたれ、みちびかれ来し神々のお姿が説き明かされてきている。

また大和の御教えにありし数々の御教えの深く厚きをのこが、どんどん深化すごとに驚くばかりである。そして、その解明のできる心に進化していることを有り難く拝謝すものである。

十神門のまだ開けられぬ扉が今、少しづつ開かれつつあるを感応、感体するものでもある。十種神宝の修行階梯において、どの階梯までできているかは日々の修行の折々に神諭しがあるものと信念すものである。

私の修行経歴を顧みれば、教団奉職後のほとんどが修行と共にであったをみる。全てが開祖様の誘いの言葉によるものであった。

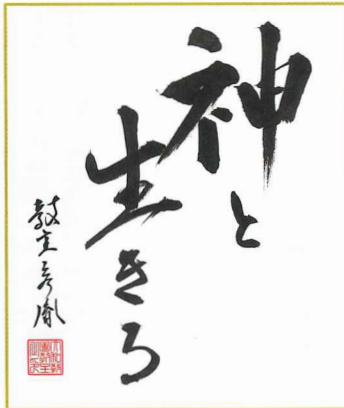
開祖様が執行されてきた火祭祈禱を始め数々の因縁解除の神事々々をその時々言葉が漏れられ、祭員奉仕にと命ぜられ学ばせて頂いた。今の教師等のごと、一から十まで懇切丁寧な教伝されるわけではない。昔流の言葉で云えば「盗む」ということである。

そして、修行の時の神掛りなされし時の審神者をさせて頂いた経験により、私も神霊との交流の道を修業せねばの心ともさせて頂いたが、それどその道は、私が教団に奉職してから程なき時より道は開かれていたを今更ながら覚るものである。私が開祖様に「私のこと拝んで下

さい」とお願いすると「私はあなたのことには拝まない」と。何と冷たいことかと。

そして更には物事の判断をしたいのなら、大物生大神様の御神像に願って、正邪美醜曲直、約めて云えば「叶うか叶わずか、なすべきかなさぬべきか」等々お尋ねすればよいと。叶うなら軽く、叶わぬなら重くなりてお示し下さいと云えばそれでよいとのことであった。

私は何故かその日より大物生大神



御神像に手を当て念じ、思念思考をなして、お伺いを始めた。一時間も二時間も次から次からお伺いすることが当たり前になつていった。

二貫目、八キロ程の御石の御神像が重くなってピクリともしなかつたり、易々と上つたりの現象を自ら体感している自分のあることを不思議と感じていた。自分の意識が強く起る場合は、無意識に力が入ることでも。その加減を身につけることも大き修行となつた。

私が百日間の寒中行として、錦町の本庁より、大國神社まで深夜の二時より五時間程歩く道中行を始めた。錦町より、貝ヶ森、国見を通り、そして、芋沢の山を抜けて大市山へと

の行程を只管歩いた。寒さで顔の髭が凍て付いた時もしよつちゆうであつた。

その行の中で突然腰を傷め歩くことができなくなり、青年部の指圧が何等かの免許を持つていているという者に治療してもらつた経緯がある。加減が過ぎて益々炎症を起こし、トイレにゆくことも出来ぬ状となり六十日で断念せざるを得ず身となつた。誠に残念至極であつた。

そんな時に、開祖様が朝の三時頃に見舞いに来られて、身の疲れをなして下された。当時は、開祖様は二時過ぎには潔斎なされ三時にはお務めに入られていた。この日も東京方面に出かけるという。そのような忙しい最中に、私の為に立寄られたのである。有り難くて、有り難くて涙すばかりであつた。

その後、腰の治療をすべく仙台整形外科病院の特別室に一月間入院治療に入った。その間も大物生大神御神像を病室に奉持してもらい机に祀り、只管重軽神事を事為した。看護婦さんは「保積さんは何しに来たの」と皮肉られた言葉もあつた。しかしベッドにいても次から次と御教えのことが頭に浮びて治療どころではなくなつていった。

その後、退院をなし山形の筍沢の湯がよいとのことを開祖様に云われ順つた。

その折、開祖様に「年寄りでも読み易い本を作ってくれ」と云われ、四冊の教本をまとめさせて頂いた経緯がある。『大和の言霊Ⅰ・大和の言霊Ⅱ・大和のおみちびぎ・行なるべし』にまとめさせて頂いた。資料も少ない中での作業であつた。

これが、私が大和にこれほど尊い御教えのあるを実感した最初であつた。

(二面五段へ続く)

節分厄除祭



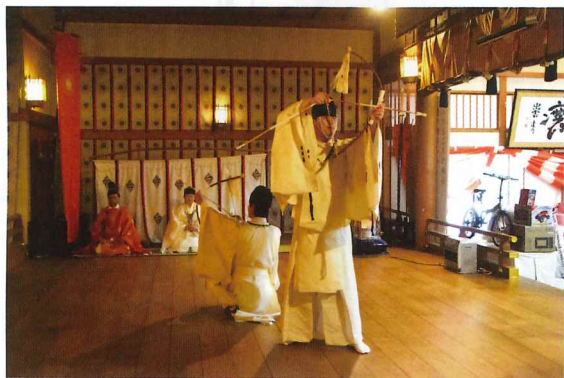
斎主嗣親様による火祭祈禱が執行された

台へと登壇し「福は内、福は内、鬼は外、鬼は外、稔れ稔れ稔るう」と盛大に豆まきが行われた。豆撒きの後、豪華景品の授かる大抽籤会が行われ、幸甚幸甚の抽籤会を楽しんだ。

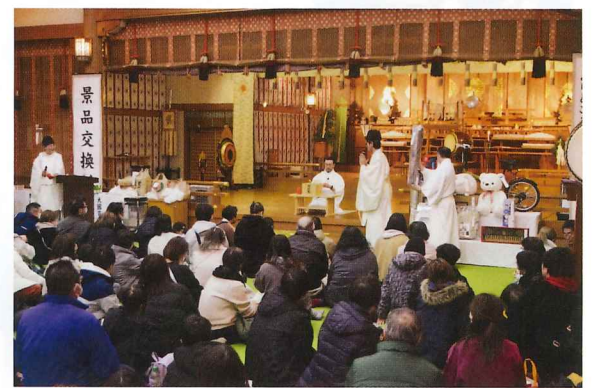
御嗣親様 教話

皆さんの命は本当に尊いものです。仲睦まじく、笑顔で感謝の心を身に表すことです。お互いの命に感謝し合い、神様にこそ先づ感謝の心を表すのです。誰しも、あとどれ位生きられるか分かりません。必ず幽界に行きます。だからこそ自分の命を大切に生きて欲しいのです。感謝と笑顔の稽古を各々行って、周りの方々に表して下さい。

二月二日午前十一時より大國神社祈禱殿において、斎主嗣親様のもと節分厄除祭が斎行された。大勢の参列者のもと、斎主嗣親様以下、祭員により祈願者一人ひとりの願が前前に言上げられた。宝弓之儀では鬼門、裏鬼門へ所役の祈り詞によつて三度神弓の矢が放たれ、魔を射破い、斎主嗣親様による豆打ちの儀が執行された。全方位に豆が撒かれ「天打ち、地打ち、四方打ちやらいて、鬼は外、鬼は外、福は内、福は内、稔れ稔れ稔るう」の発声と共に一切が祓い清められた。斎主玉串拝礼の後、金幣拝戴が行われ、参列者玉串拝礼を以て祭儀は修められた。この後、斎主嗣親様により節分祭の説明とご教話がなされ引き続き祭員と共に、おだいきくさまの衣装をまとった参列者が特設舞



祭員による宝弓之儀



豪華景品の授かる抽籤会に大盛り上がり

今日は「トホカミエミタメ」という八文字についてお教え致します。天地の神々よ、幸せを授け給えという意味です。悩み苦しんでいる時や落ち込んでいる時、仕事や学校等で頑張らなければならぬという時に、どうか忘れずに「トホカミエミタメ」と唱えてみて下さい。そしてもう一つ「サムハラ サムハラ サムハラ」とお唱えして、道を切り拓いて自分の進むべき道を導いて下さい。全ての魔を祓つていく力強い祈りの詞です。唱えてみましょう。

「サムハラ サムハラ サムハラ」と。車を運転する時にも護られます。本心に何が起きるか分からない世の中、人の心、動きにあります。そういうものから守ってもらい、魔を除けてもらうことです。これから皆さんが幸せに生きていくための道です。そしてこの終守りですが、家の四隅の天井に配し、五本目は神棚や大事な所に祀ります。家の真中でも良いでしょう。災いを除けて福を頂いてもらいたいものです。こちらの八方しめは家の玄関の上や裏玄関又は大事な所にお祀りします。八方の災いを除けて、八方よりの幸せを頂

準教師・育成者勉強会・大和交流会 毎月開催中



大和交流会にて重軽神占の指導を受けた



準教師・育成者勉強会にて大和を学ぶ

準教師・育成者勉強会では神拝詞の奉誦の仕方や大和の善導救済等について学びます。大和交流会では、一般的な参拝知識や祈りと感謝と奉仕の生活等を学んで参ります。皆様ふるつてご参加下さい。

いて下さい。どんなに気を付けていても色々な事が起こりますから神様に守って頂くことです。時の気の傾きに遭わないように、除けてもらう為に、どうぞ「トホカミエミタメ」という祈り詞を覚えて毎日唱えて下さい。節分の豆撒きは魔を祓うだけではなくて、皆さんに幸せをお分ちしますという儀式です。これからおだいきくさまの衣装に着替えて行って下さい。皆さん有難う御座います。

教主様随想記 大和神随らの道(続)

「自覚自戒」

我が腰に 激痛走る
我が身体 我が意ならず
一心に神に 念じしも
如何とも為し難き
悔しき哉 この想い
無念なる哉 この想い
如何なる神の咎しめや
如何なる神の御悟しか

我れ 自問自答す
我れ 自覚自戒す

「教祖(おや)さまの御心」

教祖さまが 見舞いに見えられる
外はまだ暗いでしょうに
外はまだ寒いでしょうに
愚息たる
この教子(おしえこ)のために
御身お厭いもせず お越し下さる
その暖かき そのお姿に
只々 有り難く
我が心 手を合わせ
摩るばかりなり
我がこの身体を
如何にも優しく
如何にも力強く 祈禱なさる
その尊き その御姿に
只々 勿體なく
我が心 涙すばかり

此度は思うがままにペンを走らせて頂いた。
これからも私の神ながらの人生を思うがままにペンを執りたいと思う次第である。
結びに修行六十日目で倒れし時に綴った短編詩九編の中より、今回は三編ほど記めさせて頂いた。

「神の随に」

私が愚体 腰の病いに倒る
三度の百目行
六十日目にして挫折す
甚だ無念なり
甚だ口惜しきなり
此度の行 一切が 神の随になれば
此れも神の与えし行なるか

令和七年二月十八日

教主秀胤

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましよう

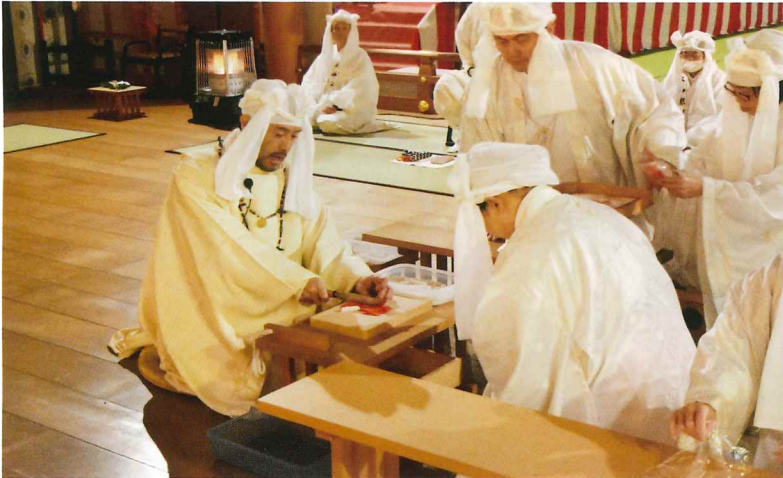
特別寒中火祭謹行結願行 禁厭神事第二座



寒中の二十一日間、火祭謹行が厳修された

秘神事を執行、祈願者一同の願旨が神々に言上げされ、それぞれの悪因縁を断ち切り、幸榮幸縁の道が願われた。祭儀後、茶礼にて、齋主、嗣親様より、結びの御教話を頂き参拝者の体感談をもつて、諸祭儀は滞りなく申し修められ、今年の特別寒中火祭謹行も無事結願となった。

本年も「寒中」の一月十四日より二月三日までの二十一日間に亘り、毎朝午前六時より大國神社祈禱殿において、大神様の神威を拝し奉る特別寒中火祭謹行が執行された。結行を迎えた二月三日午前六時より、特別寒中火祭謹行結願第二十一座並びに特別禁厭祈禱第二座が厳修された。先ず修祓之儀の後、嗣親様先達のもと大和祈詞を奉誦、綾瓊神歌にて御神名をお称え申し上げ、祝詞を奏上、信奉者一人ひとりの願旨が大前に言上げされ、大道神祇奉唱、火祭謹行が厳修された。引き続き、悪しき因縁の道切り神事である特別禁厭祈禱第二座が齋主嗣親様のもと執行された。祝詞奏上後、御神餅切の



齋主嗣親様による御神餅切秘神事執行

第十七回 出羽三山神社山伏勧進 新年祈願祭



大先達阿部良一宮司による火祭祈禱

一月二十六日、第十七回出羽三山神社山伏勧進新年祈願祭が大國神社祈禱殿において、阿部良一宮司を大先達に山伏、伶人、巫女の八名でのご奉仕により齋行された。本教の出羽三山登拝講は、開祖様の湯殿山におけるご修行のご神縁に始まり、爾来九十七年目を数える歴史ある登拝講である。各地でご修行を積まれた開祖様は、出羽三山登拝に於いては心身を鍛え、運勢を安定させ、御霊の浄霊供養をはかり、良縁をも結ぶ御神徳があると申されておられた。信奉者は大型バスにて地域毎に集い、大國神社内、神変神社で火祭祈禱を受けた後、出羽三山神社の三つの御山を駆け、それぞれで祈願供養をなし、運勢を切り拓いていく道でもある。出羽三山神社の皆様には毎年様々のご協力を頂き、そうした御神縁の



教主様よりご挨拶を頂く



阿部良一宮司様によるご挨拶

中、十七年前より大國神社を祭場とした三山山伏勧進祈禱である。午前十一時、出羽三山神社の山伏が法螺貝を吹きて開祭が告げられ、大先達阿部宮司以下入殿、祭場に集えし参列者は皆、威儀を正してお迎

え申し上げた。儀式は修祓、大先達一拝、献饌、大先達による三語、祝辞、拝詞奉唱と続き、綾瓊神歌では大和の神、三山の神をお称え申し上げ、火祭祈禱が執行、祝詞奏上の中で祈願者一同の願旨が言上げされた。次いで巫女舞が大前に奉納され、大先達玉串奉奠の後、教主様、教母様、嗣親様による玉串奉奠がなされた。次に総裁家、責任役員一同玉串奉奠が修められ、撤饌、大先達一拝をもって修祭となった。



大前に巫女舞が奉納された

引き続き教主様より、此度の山伏勧進におけるご奉仕に対して御礼の御言葉が述べられ、また昭和三年よりの開祖様と出羽三山との御縁が、来たる令和十年に百年という佳節を迎えること、さらに多くの登拝者を集えて万人講の名に相応しい講中としたことが述べられた。結びに、大先達である出羽三山神社阿部良一宮司より新年のご挨拶を賜り、教主様の力強いお言葉に感謝と、本教への御礼が述べられた。法螺貝の音と共に大先達が退下し祭儀は無事申し修められた。

4月行事予定表

- 4月1日 朔日火祥神事
- 4月5日 神光龍神祭
- 4月6日 神交神社例祭
- 4月11日 大和開教祭・記念式典
- 4月13日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
- 4月15日 准教師・育成者勉強会
- 4月19日 月次祭・五講祭
- 4月20日 大和交流会
- 4月25日 春の清掃奉仕
- 4月27日 開祖祭
- 4月28日 六根修養会
- 4月29日 大國神社例大祭前日祭

5月行事予定表

- 5月1日 朔日火祥神事
- 5月7日 神光龍神祭
- 5月10日 大和婦神墓例年祭
- 5月11日 准教師・育成者勉強会
- 5月12日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
- 5月15日 綾里立石神社奉拝
- 5月17日 月次祭・五講祭
- 5月25日 みそぎ大行(18)
- 5月28日 開祖祭
- 5月31日 六根修養会
- 大和交流会

あなたの一声が 多くの人をお救いします

だいこくさま 御手にすがり 幸せにみちびかれましよう

紀元祭



建国の偉業をしのび祝詞が奏上された

令和七年二月十一日、皇紀二六八五年の紀元祭(建国祭)が大國神社御本殿において、齋主熊川知長祭儀部次長により齋行された。

紀元祭とは、神武天皇が大和の橿原宮で初代天皇に御即位され、日本国を建国したことにその由来をみる祭儀である。

日本書紀によると神武天皇が御即位されたのが辛酉の年正月一日であり、太陽暦において現在の二月十一日となり、この日が紀元節と定められている。

御神前には海川山野の種々の神饌が献ぜられ、神武天皇の建国の偉業を偲び、万世一系にて一二六代連綿と続く御皇室の弥栄と日本国家国民の隆昌を御祈念申し上げた。

祈年祭

二月十七日、大國神社御本殿において、齋主熊川知長祭儀部次長により祈年祭が執行された。

祈年祭とは、としごいのまつりとも呼ばれ、としは稲の美称、こいは祈り、米や五穀の豊かな稔りを祈ることを意味し、人々の産業全般へのご加護を賜るべく祈念を申し上げる尊い祭儀である。



国家安泰・五穀豊穡が祈られた

神前には海川山野の神饌物が供えられ、祈年祭詞が厳かに奏上、玉串奉奠後修祭となった。

依然として世界各地における戦争や紛争の解決が課題となっており、また頻発する大規模自然災害よりの復旧復興の遅れなど国の内外で様々な困難に直面している中、大神様の大御稜威、御加護を賜り、国家安泰、五穀豊穡、また里々家々の国民の無病息災・疫病退散が祈念された。

天長祭

二月二十三日、天長節の佳き日、午前十一時より、大國神社御本殿において、天皇陛下の御誕生日を奉祝申し上げる天長祭が、齋主熊川知長祭儀部次長のもと齋行された。御神前には季節の神饌が供えられ、厳かに祝詞が奏上された。

先ず、国歌「君が代」が斉唱され、修祓の後、天皇陛下のご長寿と益々のご健康と御皇室の弥栄、さらには日本国家、国民の隆昌をご祈念申し上げ、聖寿万歳をもって祭儀は結ばれた。



天皇陛下の御誕生日を奉祝申し上げた

福神招福祭



齋主嗣親様と祭員により祈願読み上げがなされた

旧暦正月の二月二十九日午前十時、大國神社祈禱殿において福神招福祭が齋行された。日本神話で大國主大神

が大穴牟遲(おおあなむぢ)と呼ばれていた頃、根の堅州国で建速須佐之男命の試練を受けた際、子(ねずみ)の助けを得て試練を乗り越えた逸話が残されている。

「子」とは十二支の初めであり、種子が新しい生命を宿して芽吹きはじめることを意味する。この神祭は、その生命の息吹の日(旧暦元旦)に、大國主大神様とのご神縁をより強く結ばれ、この年の福徳を授かる神事である。先ず、開祭詞が告げられ、修祓の後、齋主嗣親様より福神招福祭詞が奏上された。金幣拝戴神事が行われ、齋主玉串拝礼の後、総裁家玉串拝礼、参列者玉串拝礼をもって修祭となった。

開祖様二十二年祭 万霊慰霊祭 水児地蔵祭



開祖 保積史子比咩命

開祖様への感謝のおこころをお捧げ下さい

とき 3月23日(日) 午前10時

※15分前には着座下さい

ところ 大國神社祈禱殿・大國地蔵広場

外寒行記

寒行巡拝奉仕をさせて頂いて 祭儀部次長 熊川知長

本年も一月五日より、明の方位の地域から始まった外寒行は二月二日の芋沢地区まで行われました。各地域、教信奉者のお宅の玄関先で厄難消滅、家内安全、無病息災、身上安全を一心に祈念する厳しき寒祈禱です。日頃から月祓いをしているお宅か

続く福授抽籤会では、神々の神威蒙る福神の縁起物として「福神招福祭大御幣」「干支置物」「破魔矢」等が夫々抽籤された。参列者は皆、本年の福縁を授かり、この一年を除災招福、家内円満に護られるものである。

ら、関係企業、崇敬者、神社の地元近隣の方々まで、里々家々の一件一件を廻り、お祓い、ご祈念を申し上げます。山伏宝冠白装束姿で伺いご祈念を申し上げると、飲み物や食べ物を用意して下さる信奉者の方もおられ、寒さ厳しき折、皆様の暖かいお気持ち有り難く拝し奉りました。



信奉者宅を寒行巡拝申し上げた

寒の祈禱は、大寒である一月二十日を含み、一年で最も寒い時期に行うもので、教師の修行、節前に行われる家々の災い除けでもあります。祓神言、十種神宝、神語を大國鈴の清しき鈴音と共に唱え続け、悪鬼を祓い、福徳を呼び込み、家内の皆様の今年一年間の安寧を只管にご祈念申し上げます。此度の外寒行をご奉仕頂いた教師信奉者の皆様、誠に有難う御座いました。心より感謝申し上げます。

かたくり祭 4/5~4下旬
開園20周年・100種類を超える山野草が咲き誇る
大國神社山野草公園